奈良文化財研究所平城宮跡資料館　特別企画展

地下の正倉院展―平城宮木簡の世界Ⅰ　天皇の食膳

展示期間

Ⅰ天皇の食膳	二〇〇七年一〇月二三日(火)―一一月　四日(日)
Ⅱ宮廷の生活	一一月　六日(火)―一一月一八日(日)
Ⅲ木簡の諸相	一一月二〇日(火)―一二月　二日(日)
Ⅳ宮城の守り	一二月　四日(火)―一二月一六日(日)

a　古代の乳製品

1　近江国からの高級乳製品の荷札

近江国生蘇三合　　長さ五五㎜・幅九㎜・厚さ二㎜　〇三一型式　　(四六六号木簡)

「近江国」(今の滋賀県)から届けられた「生蘇」の荷札。蘇は牛乳を煮詰めて作る古代の高級乳製品。半生のやわらかい状態で土器に入れられていたのだろう。「三合」は今の一合二勺ほど(約二二〇cc)。容器に合わせて木簡も小型。最小の木簡の一つ。

木簡をよむ1

二条大路木簡の蘇の荷札

「近江国生蘇三合」の木簡は、永らくの間、日本で唯一の蘇の荷札木簡でした。それだけ、蘇が貴重な製品だった証と言えるでしょう。ところが、一九八九年から九〇年にかけて発見された二条大路木簡(左京三条二坊の長屋王邸の跡地に設けられた光明皇后の皇后宮に関わるとみられる七万四千点に及ぶ木簡群)からは、参河、美濃、武蔵、上総の四点の蘇の荷札木簡がまとまって発見されました。高級乳製品である蘇が、広く全国で生産・貢進されていたことが明らかになったのです。ただ、「生」の蘇の荷札はいまだに近江国の一点だけ。都に近い近江ならではといえるかも知れません。

b　山海の珍味

2　備前国からのクラゲの荷札

(表)備前国水母別貢　御贄弐斗　　(三九八号木簡)

(裏)天平十八年九月廿五日

長さ一四四㎜・幅二八㎜・厚さ六㎜　〇三二型式

「備前国」(今の岡山県南東部)から「御贄」として届けられた「水母」の荷札。「別貢」は、定例の貢進外であることを示すか。「弐斗」は今の八升、約一四・四リットル。「天平十八年」は七四六年。「備前国」は後から余白に書き込まれている。

3　伊予国からのサバの荷札

伊予国風早郡中男作物旧鯖弐伯隻載籠　　(三六一号木簡)

長さ一六一㎜・幅二〇㎜・厚さ四㎜　〇三一型式

「伊予国風早郡」(今の愛媛県北条市・松山市)から「中男作物」として届けられた「旧鯖」の荷札。「弐百隻」(「隻」はここではサバの単位。二〇〇尾)のサバが「籠」に「載」せて運ばれた。

4　越中国からのサバの荷札　（三五七号木簡）

（表）越中国羽咋郡中男作物鯖壱伯隻　「廣椅」

（裏）天平十八年　「大庭」

長さ二九〇㎜・幅三七㎜・厚さ六㎜　〇三一型式

「越中国羽咋郡」（今の石川県羽咋市）から「中男作物」として届けられた「鯖」の荷札。「壱百隻」（「隻」はここではサバの単位。一〇〇尾）はサバの数量。「天平十八年」は七四六年。裏面の年紀の下の二人の人名は別筆。

5　武蔵国からの豉の荷札　（四〇四号木簡）

武蔵国男衾郡余戸里大贄豉一斗天平十八年十一月

長さ一八〇㎜・幅二四㎜・厚さ六㎜　〇三二型式

「武蔵国男衾郡余戸里」（今の埼玉県旧大里郡付近）から「大贄」として届けられた「豉」（塩納豆の類）の荷札。「一斗」は今の四升、約七・二リットル。重さではなく、かさで計量している。「天平十八年」は七四六年。

6　武蔵国からの背割りの鮒の荷札　（四〇五号木簡）

武蔵国男衾郡川面郷大贄一斗　鮒背割　天平十八年十一月

長さ一六一㎜・幅一三㎜・厚さ五㎜　〇三二型式

「武蔵国男衾郡川面郷」（今の埼玉県旧大里郡付近）から「大贄」として届けられた「背割」の「鮒」（背開きの鮒。干物か）の荷札。「一斗」は今の四升、約七・二リットル。重さではなく、かさで計量している。「天平十八年」は七四六年。

木簡をよむ2

「大贄」から「御贄」へ

「大」も「御」も、どちらも「贄」を飾る敬称ですが、天平年間頃（七二九～七四九）を境に、「大贄」から「御贄」に変わっていったことが確かめられています。SK八二〇の木簡はちょうどその転換期にあたり、「大贄」と「御贄」の両方が見られます。

7　伯耆国からの干物の荷札　（三六〇号木簡）

（表）伯耆国汗入郡尺刀郷中男作物腊一斗

（裏）天平十七年十月

長さ一六一㎜・幅一九㎜・厚さ四㎜　〇五一型式

「伯耆国汗入郡尺刀郷」（今の鳥取県大山町）から「中男作物」として届けられた「腊」の荷札。「腊」は魚や肉の干物。「一斗」は今の四升、約七・二リットル。重さではなく、かさで計量している。「天平十七年」は七四五年。

C　宮内に蓄えられた品々

8　クルミの荷札　（四六四号木簡）

山上呉桃一斗

長さ一三一㎜・幅二一㎜・厚さ五㎜　〇三三型式

「呉桃」はクルミのこと。「一斗」は今の四升、約七・二リットルにあたる。「山上」は越前国能美郡山上郷（今の石川県能美市）のことか。郷名から書き出し、かつ「郷」を省略する荷札は、志摩国の贄とみられる荷札に類例がある。

9 紫菜の付札

紫菜上

長さ一三〇㎜・幅二三㎜・厚さ三㎜　〇三一型式　（四六三号木簡）

「紫菜」は海藻の一種ムラサキノリ。海藻類の中では最も高価。しかも「上」は品質が上級であるという意味で、最高級の海藻。貢進地を記さないのでラベルの木簡ともみられるが、略式の贄の荷札の可能性もある。

10 滓漬けの付札

滓漬□□一瓾　天平十五年四月

長さ一四九㎜・幅二〇㎜・厚さ四㎜　〇三二型式　（四七四号木簡）

滓漬けを入れた甕の付札。「瓾」は浅い甕。「一」は瓦偏の一画目の可能性もある。品目は判読できない。「天平十五年」は七四三年で、漬け込みの時期を示すか。当時聖武天皇は恭仁宮や紫香楽宮にいた。そこで漬けた物を平城に運んだか、はたまた聖武留守中の平城の製品か。いずれにせよ廃棄時期からみてかなりの古漬け。

11 天皇用の調味料の付札

供　御末醤一石二斗

長さ二〇二㎜・幅三一㎜・厚さ五㎜　〇三二型式　（四七二号木簡）

「御」は天皇専用の意味。「供御」は御に供える、すなわち天皇専用に調整する物品をいう。「御」の上が一文字分空白になっているのは、闕字といい天皇に敬意を表する表記法。「末醤」は味噌の前身の調味料。「一石二斗」は今の四斗八升、約八六リットル。

d 産地指定の新物ワカメ

12 下総国からのワカメの荷札

下総国海上郡酢水浦若海藻　御贄太伍斤　中

長さ二〇二㎜・幅二五㎜・厚さ六㎜　〇三二型式　（四〇〇号木簡）

「下総国海上郡」（今の千葉県銚子市・旭市）から「御贄」として届けられた「若海藻」の荷札。「酢水浦」という産地名入りのブランドもの。「太伍斤」は重さを示し、太（大）斤五斤は小斤一五斤にあたる。今の約三・四キログラム。「中」は品質か。下端にのみ切り込みをもつ比較的珍しい形態の荷札。

13 阿波国からのワカメの荷札

阿波国進上御贄若海藻壱籠　板野郡牟屋海

長さ一九〇㎜・幅一九㎜・厚さ六㎜　〇三一型式　（四〇三号木簡）

「阿波国」（今の徳島県）から「御贄」として届けられた「若海藻」の荷札。「板野郡牟屋海」という産地名入りのブランド品。今で言えば、さしづめ鳴門のワカメ。古来ワカメの名産地だったのだろう。「籠」に入れて運ばれた。

木簡をよむ 3

下端にだけ切り込みがある木簡

荷札や付札の切り込みは、荷物に木簡を括り付けるときに紐などをかけるための装置です。日本の木簡では一端のみに切り込みがある場合は、上端のみの例が圧倒的に多いのですが、韓国の六世紀の木簡では逆に下端のみのものがほとんどです。それで、日本でも韓国の影響を受けたと考えられる七世紀の古い時期の木簡では、下端のみに切り込みをもつものが多いと言われてきました。しかし、下総国の若海藻の荷札をはじめ、八世紀以降にも結構この形態の木簡はあるのです。切り込みの位置はどうやって決めたのでしょうか？

木簡をよむ 4

産地指定のブランドもののワカメ

下総国酢水浦や、常陸国酒烈埼、阿波国牟屋海のほかに、SK八二〇の木簡には、もう一点、産地特定の贄のワカメの荷札があります。長門国都濃嶋のワカメです。浦、海、埼（崎）、嶋など、行政地名ではなくわざわざ土地の名を冠したワカメ、各地選りすぐりの名品だったのでしょう。

14　常陸国からのワカメの荷札　（四〇二号木簡）

常陸国那賀郡酒烈埼所生若海藻

長さ二二一㎜・幅二三㎜・厚さ三㎜　〇三一型式

「常陸国那賀郡」（今の茨城県中部）から届けられた「若海藻」の荷札。12・13と同じように、「酒烈埼」（今の、ひたちなか市）という産地名入りのブランドもので、明記はありませんが、贄の荷札とみられます。

15　但馬国からのワカメの荷札　（四〇九号木簡）

〔但カ〕□馬国第三〔般カ〕□進上若海藻　御贄一籠＝
＝天平十九年二月廿八日

長さ（二二八）㎜・幅（一二）㎜・厚さ四㎜　〇三九型式

「但馬国」（今の兵庫県北部）から「御贄」として届けられた「籠」入りの「若海藻」の荷札。「第三般（搬）」は、この年三度目の貢進を示すか。「天平十九年」は七四七年。左半分と下端を欠損するが、文字の読み取りに大きな支障はない。

e　三河湾に浮かぶ天皇専用の島

16・17・18　参河湾諸島から海産物の荷札

参河国播豆郡析嶋海部供奉六月料御贄佐米楚割六斤

長さ二五三㎜・幅二三㎜・厚さ三㎜　〇三一型式（三七五号木簡）

参河国播豆郡析嶋海部供奉六月料御贄佐米楚□

長さ（二七三）㎜・幅三〇㎜・厚さ四㎜　〇三九型式（三六三号木簡）

□参河国播豆郡篠嶋海部供奉五月料佐米楚割六斤

長さ二九七㎜・幅一九㎜・厚さ三㎜　〇三一型式（三六九号木簡）

「参河国播豆郡」の「析嶋」（今の愛知県一色町佐久島。三六三号・三七五号）・「篠嶋」（今の愛知県南知多町篠島。三六九号）から「御贄」として届けられた「佐米楚割」（サメの干物）の荷札。海民集団「海部」が月単位で貢進する書式をとる。おおむね析嶋が偶数月、篠嶋が奇数月を担当した。日莫（日間賀）嶋が分担することもあった。「六斤」は重さの単位で、約四キログラムに相当。播豆郡三嶋のこの書式の贄の荷札には、けっして年紀は書かれない。なお、三六九号木簡は「御贄」を書き落としている。

木簡をよむ 5

「叁」と「参」の使い分け

「参河」の「参」は、後に「三河」とも書かれるように、数字の「三」の意味です。「参」の正字は「參」ですが、八世紀半ば頃までは、数字の「三」の意味の時は「叁」、「まいる」の意味の時は「参」と書き分けられていました。木簡の「参河国」の「参」は例外なく「叁」。数字であることを意識して書いていたようです。

【編集】　奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室